

# NR化した既存帯域におけるユースケースについて

KDDI株式会社

2019年 11月 26日

Tomorrow, Together おもしろいほうの未来へ。

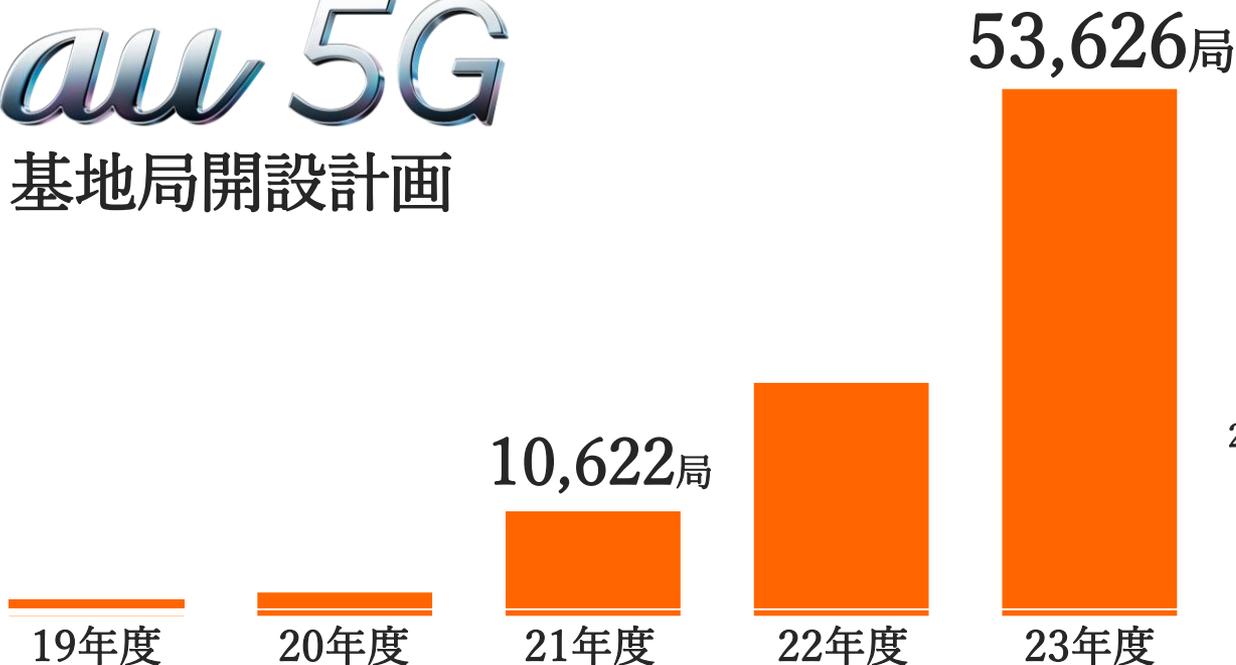
**KDDI** *au*

# 開設計画における基地局展開数

2023年度末までに全国へ53,626局を展開。全国の幅広い箇所で利用可能となる5Gネットワークを構築

*au* 5G

基地局開設計画



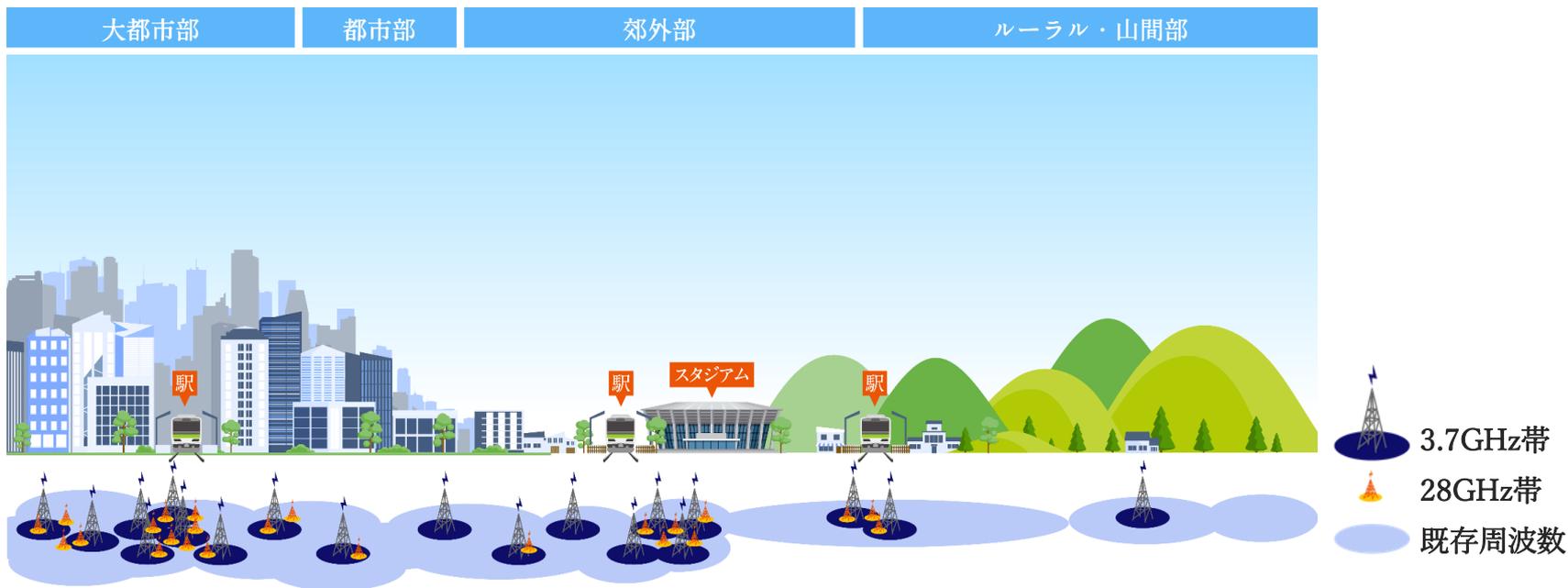
21年度 1万局超

23年度 5万局超 (※)

(※) 3700-3800MHz、4000-4100MHz、27.8-28.2GHzの屋外/屋内基地局数の合計

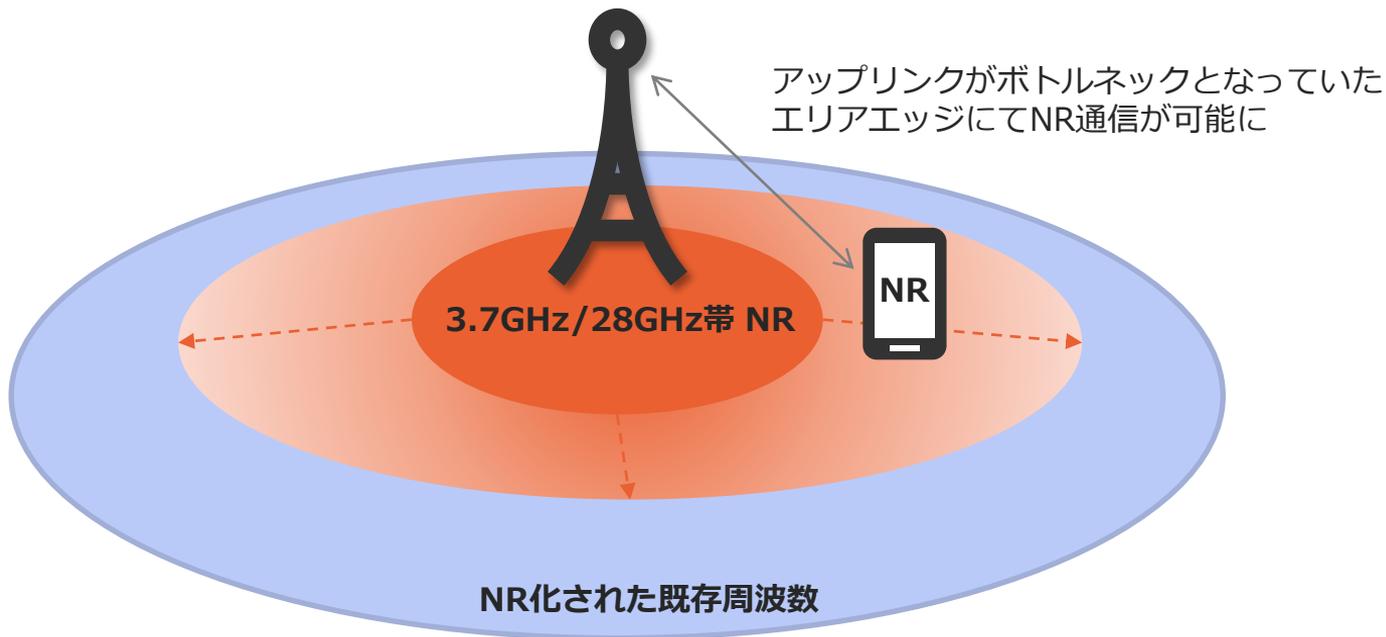
# 5Gインフラの展開に向けて

本年4月に割当てられた3.7GHz帯/28GHz帯の基地局をしっかりと展開していきながら、それらの5Gエリアを下支えするために既存周波数のNR化は必要



# 既存周波数のNR化に伴うNRエリアカバレッジ拡張

端末から基地局への通信にNR化した既存周波数を用いることで、NR通信におけるエリアカバレッジの拡張が期待される



# NR化周波数におけるユースケース

広帯域な周波数が必要となる高速大容量の特長以外に、低遅延ニーズを求められるユースケースにおいては、既存周波数のNR化で対応



スマート工場

MaaS



遠隔操作

## まとめ

- 本年4月に割当てを受けた3.7GHz帯及び28GHz帯における基地局展開を計画どおりしっかり進めることが大前提
- 一方、5Gの特長のひとつである低遅延等が必要となるユースケースに対しては、既存周波数のNR化により広範囲で対応可能となる
- 3.7GHz帯や28GHz帯のエリア展開と既存周波数のNR化を組み合わせることで、5Gに対するニーズを広く対応できるよう、ユーザ保護に配慮しながら、引き続きインフラ構築をしっかりと進めていく

Tomorrow, Together

**KDDI**

おもしろいほうの未来へ。

*au*